

伊方発電所 3 号機プルサーマル計画に伴う
経済産業省主催のシンポジウムに係る調査結果報告書

平成 2 3 年 7 月 2 9 日

四国電力株式会社

目 次

1. はじめに	1
2. 指示事項	1
3. 調査体制	1
4. 調査結果	2
5. 添付資料	

1. はじめに

平成23年7月6日の九州電力株式会社（以下、「九州電力」という。）からの経済産業省主催の佐賀県民向け説明番組に際し、九州電力が協力会社等に対してネット参加を呼び掛け、玄海原子力発電所の再起動に賛成する立場からの意見表明を行うよう要請したことの報告を受け、平成23年7月14日に発出された経済産業省資源エネルギー庁文書「地域住民からの意見聴取のために国が主催したシンポジウム等での特定の意見表明を要請した事実の有無に関する調査について」（平成23・07・14 資庁第2号）に基づき、平成18年6月4日の経済産業省主催のプルサーマルシンポジウムにおける当社から関連企業等への参加要請等の関与について、調査結果を報告するものである。

2. 指示事項

平成23年7月14日に発出された経済産業省資源エネルギー庁文書における指示事項は以下のとおりである。

- (1) 当社が影響力を行使しうる者（社員、関連企業等）に対し、何らかの情報提供あるいは要請を行った事実の有無。また、仮にあるとすれば、その内容および方法。
- (2) 上記に該当する場合、第三者の立場を装って特定の意見を表明するよう要請した事実の有無。

3. 調査体制等

本件指示文書の調査体制等は、以下のとおりである。

- (1) 調査期間
 - ・平成23年7月19日（火）～平成23年7月28日（木）10日間
- (2) 調査対象者
 - ・同シンポジウムの開催に関係した者（当社関係者 11名）
- (3) 調査方法・内容
 - ・直接聴き取りや証拠書類（文書、メール）等での確認等
 - ・事実関係（指示命令等）、背景、動機等

(4) 調査体制

- ・原子力部にて調査した内容をコンプライアンス関係部署に連絡し、調査方法、調査内容およびその結果について確認を行った。

4. 調査結果

- (1) 当社が影響力を行使しうる者（社員、関連企業等）に対し、何らかの情報提供あるいは要請を行った事実の有無。また、仮にあるとすれば、その内容および方法。

① 本シンポジウムは、地元の方々に対して、

- ・プルサーマルの必要性や安全性について理解を深めてもらうこと
- ・国から原子炉設置変更許可の審査結果について説明すること

を目的として、愛媛県在住者を対象（伊方町および八幡浜市の方を優先）に開催されたものであり、プルサーマル計画の賛否を問う性格をもって開催されたものではない。

本シンポジウム開催にあたり、経済産業省から当社に対して、オブザーバーとして登壇すること、およびシンポジウムの運営が円滑に進められるように協力を依頼された。

(添付－1)

② 国や有識者による説明などを傍聴することは、

- ・プルサーマルに対する理解が深まること
- ・パネリストや会場の聴衆との質疑を直接聞くことにより、慎重派の論点も明確に認識できること
- ・更に当社および関連企業の従業員にとっては、業務知識の向上、今後の理解活動に有益であること

により、当社および関連企業の従業員など、参加資格を有する方に対して、シンポジウムへの参加について呼びかけを行った。

③ 質問や意見を行うことは、シンポジウムでの議論の論点が明確化され、プルサーマルに対して理解を深めるのに有益であることから、参加者の一部の方に、本人の了解を得た上で、当時報道等で話題になっていたプルサーマルに関連した事項について、質問や意見を行うようお願いした。

④ 具体的な参加の呼びかけおよび質問・意見の依頼については、以下のとおりである。

○ 平成18年4月27日、伊方発電所（以下、「発電所」という。）において、本店原子力部業務グループ（課長クラス）および伊方発電所総務グループ（課長クラス）などでプルサーマルシンポジウム開催に当たっての打合せを実施した。発電所から従業員および関連企業（四電エンジニアリング株式会社、四国計測工業株式会社、四電ビジネス株式会社、伊方サービス株式会社）等に対して参加の呼びかけと質問や意見の発言をお願いすることとなった。なお、同日、上記内容を原子力本部長まで情報提供を行った。

○ 平成18年5月中旬に発電所から、当社および関連企業の従業員等に対して、シンポジウムへの参加について呼びかけを行った。

・従業員等については、発電所総務グループ（課長クラス）から発電所内の各グループ（課長クラス）12名に対しては口頭で、宇和島支店総務課（課長クラス）および八幡浜営業所（所長クラス）に対しては文書で、参加の目安人数を示したうえで、シンポジウム開催チラシ、応募葉書および応募葉書の書き方を記した文書を配布して、参加の呼びかけを行うよう依頼した。また、原子力部門OB59名に対しても原子燃料部プルサーマル推進グループ（担当者）からメールにて参加をお願いした。

（添付－2）

- ・ 関連企業については、発電所総務グループ（副長クラス）から関連企業の担当者に対して口頭で、参加の目安人数を示したうえで、シンポジウム開催チラシ、応募葉書および応募葉書の書き方を記した文書を持参して、参加の呼びかけを行うよう依頼した。

（添付－３）

- ・ 当社が影響力を行使しうる者ではないが、一般の地域団体についても、発電所総務グループ（副長クラス）から、平成１３年度からのプルサーマル理解促進活動で説明会を実施した老人クラブ、漁協、消防団等の団体代表者等に対して、シンポジウム開催チラシ、応募葉書および応募葉書の書き方を記した文書を持参して参加の呼びかけをお願いした。

（添付－４）

- 質問・意見の依頼については、発電所総務グループ（課長クラス・副長クラス）から参加者の一部の当社および関連企業の従業員など（一般の地域団体の方を含む）、２９名に当時報道等で話題になっていたプルサーマルに関連した事項等について、質問・意見をしていただくように口頭もしくは質問・意見の内容を記したメモでお願いした。

（添付－５）

- なお、シンポジウム開催当日の質問・意見については、コーディネーターが会場内のブロックごとに、挙手した方を指名して質問等を聞いた。結果として、全１５名が発言されたが、そのうち、１０名の方が当社が依頼した方であった。

(2) 上記に該当する場合、第三者の立場を装って特定の意見を表明するよう要請した事実の有無。

○ 特定の者に対して、第三者の立場を装って、会場の雰囲気を積極的にプルサーマル賛成の方向に誘導するような意図的な質問や意見の要請、個人の意思に反しての質問や意見の要請はしていない。

○ 本シンポジウムは、参加者の理解を深めるためのものであり、その結果をまとめて特定の意見の方向で集約するなどの性格のものではない。

質問や意見を行うことにより、シンポジウムでの議論の論点が明確化され、プルサーマルに対して理解を深めるのに有益であることから、参加を呼びかけたうちの一部の方に、本人の了解を得た上で、質問や意見をお願いしたものである。

また、シンポジウム開催時に配布されたアンケートの回答については、当社から要請はしていない。

(添付－6)

5. 添付資料

添付－1：プルサーマルシンポジウム開催チラシ（経済産業省）

添付－2：当社従業員等に対する参加案内の概要

添付－3：関連企業従業員に対する参加案内の概要

添付－4：一般の地域団体の方に対する参加案内の概要

添付－5：国シンポジウムの発言の例

添付－6：会場内に配布されたアンケート

以 上

プルサーマルシンポジウム

日時

6月4日(日)

13:00~17:30頃(12:30開場)

参加無料 ※事前登録が必要です。

■当日は、インターネット及び八西ケーブルテレビにて中継を行います。

<http://www.pu-simpo.jp>

場所

伊方町民会館・大ホール

愛媛県西宇和郡伊方町湊浦1995-1

プルサーマルについてのシンポジウムを開催いたします。

四国電力株式会社伊方発電所3号機において、プルサーマルの実施が計画されています。地域のみなさまに、プルサーマルの必要性や安全性についての理解を深めていただくために、この度、シンポジウムを開催することといたしました。みなさまのご参加をお待ちしております。

プログラム

(1) 進め方

プルサーマルに関する必要性と安全性について国から説明した後、プルサーマルの導入について推進の意見や慎重な意見を有する有識者による討論を行う。

(2) 登壇者

・説明

資源エネルギー庁及び原子力安全・保安院職員

・討論

推進の意見、慎重な意見を有する有識者をそれぞれ数名。
(この他、オブザーバーとして四国電力(株)等が参加)

参加者募集

■ 募集定員 600名(愛媛県在住の方)

■ お申し込み締切 5月26日(金)必着

※応募者多数の場合には、伊方町及び八幡浜市在住の方を優先させていただきます。

■ お申し込み方法

「プルサーマルシンポジウム参加希望」と明記の上、①住所、②氏名(ふりがな)、③電話番号、④職業、⑤年齢、⑥プルサーマルに対するご意見・ご質問(もしございましたらご記載ください)をご記入の上、下記の方法にてお申込みください。参加者には、締切後、折り返し、「参加証」をお送りいたします。

■ お申し込み先 「プルサーマルシンポジウム」事務局

■ 郵送:〒100-8782 東京都中央郵便局 私書箱1057号(S) ■ FAX:03-3509-9196 ■ WEB:<http://www.pu-simpo.jp>

※応募の際にご記入いただいた個人情報は、本シンポジウム以外の目的では使用しません。注意:入場の際には、「参加証」が必要となりますので、事前にお申し込みください。

■ お問い合わせ先

【参加申込に関するお問い合わせ】 プルサーマルシンポジウム事務局 TEL:03-3509-9197

【内容に関するお問い合わせ】 資源エネルギー庁電力・ガス事業部原子力立地・核燃料サイクル産業課原子力発電立地対策・広報室 TEL:03-3501-2830
原子力安全・保安院原子力安全広報課 TEL:03-3501-5890

(24時間)
(受付)

参加証
送付先

$$\left(\begin{array}{c} \text{XXXXX} \\ \text{T} \end{array} \right)$$

[自宅・勤務先 ()]

氏 名

TEL

()

職業

農林水産業・商工サービス業・公務員・
会社員(エネルギー関係)・会社員(エネルギー関係以外)・
主婦・学生・無職・その他()

年齡

オ

■プルサーマルについてのご意見・ご質問がありましたらお書きください。

[illegible]

当社従業員等に対する参加案内の概要

項 目	内 容
(1) 要 請 日	平成 18 年 5 月 12 日～15 日
(2) 要 請 者	原子燃料部プルサーマル推進グループ（担当者） 伊方発電所総務グループ（課長クラス・副長クラス）
(3) 要 請 先	○当社従業員等 注：（）は当時の在籍人数 ・伊方発電所：総務グループはじめ 12 グループ（267 名） ・宇和島支店（201 名） ・原子力部門OB（59 名）
(4) 要請内容	○平成 18 年 5 月 12 日、朝のミーティング等において、総務グループ（課長クラス）は、伊方発電所各グループ（課長クラス）12 名に口頭で応募目安人数を示して、開催チラシ、応募葉書および応募葉書の書き方を記した文書を手渡して依頼した。 ○平成 18 年 5 月 13 日、総務グループ（課長クラス）は、宇和島支店八幡浜営業所（所長クラス）に応募目安人数を記した文書ならびに開催チラシ、応募葉書および応募葉書の書き方を記した文書を手渡して依頼した。 ○平成 18 年 5 月 15 日、総務グループ（課長クラス）は、宇和島支店総務課（課長クラス）に応募目安人数を記した文書ならびに開催チラシ、応募葉書および応募葉書の書き方を記した文書を手渡して依頼した。 ○平成 18 年 5 月 15 日、原子燃料部プルサーマル推進グループ（担当者）から原子力部門OB 59 名に対して、メールで参加をお願いした。 ○総務グループ（課長クラス）は、発電所勤務の 2 名（課長クラス）に当日の開催状況に応じて、日頃から疑問に感じていることがある場合は、質問や意見を発言いただくようお願いした。 ○社内の応募目安人数および質問等依頼人数 ・伊方発電所（65 名／2 名） ・宇和島支店（20 名）、八幡浜営業所（20 名） ※（目安人数／質問等依頼人数）
(5) シンポジウム応募者数	○社内からの応募者数：124 名（聴き取り） ※参加者数は国主催であるため不明。

関連企業従業員に対する参加案内の概要

項 目	内 容
(1) 要 請 日	平成 18 年 5 月 12 日～16 日
(2) 要 請 者	伊方発電所総務グループ（課長クラス・副長クラス）
(3) 要 請 先	○関連企業 4 社 注：（ ） は当時の発電所入構登録人数 ・ 四電エンジニアリング株式会社（ 9 9 0 名） ・ 四国計測工業株式会社（ 2 0 6 名） ・ 伊方サービス株式会社（ 1 8 4 名） ・ 四電ビジネス株式会社（ 5 9 名）
(4) 要請内容	○総務グループ（課長クラス）は、口頭で関連企業伊方事業所（所長クラス）にシンポジウム開催がある旨を伝え、応募目安人数の参加の呼びかけを依頼した。 ○総務グループ（副長クラス）は、口頭で関連企業の担当者にシンポジウム開催チラシ、応募葉書および応募葉書の書き方を記した文書を持参して依頼した。 参加される一部の方（8 名）に対して、当日の開催状況に応じて、日頃から疑問に感じていることがある場合は、質問や意見を発言していただくようお願いした。質問や意見については、本人に例文のメモを見せて、内容了解のもとお願いした。 ○関連企業 4 社の応募目安人数および質問等依頼人数 ・ 四電エンジニアリング株式会社（ 9 0 名／ 4 名） ・ 四国計測工業株式会社（ 4 0 名／ 3 名） ・ 伊方サービス株式会社（ 6 0 名／ 1 名） ・ 四電ビジネス株式会社（ 1 0 名） ※（目安人数／質問等依頼人数）
(5) シンポジウム応募者数	○関連企業からの応募者数： 1 8 9 名（聴き取り） ※参加者数は国主催であるため不明。

以 上

一般の地域団体の方に対する参加案内の概要

項 目	内 容
(1) 要 請 日	平成 18 年 5 月中旬
(2) 要 請 者	伊方発電所総務グループ（副長クラス）
(3) 要 請 先	○各地域団体 ・原子力アドバイザー ・各町老人クラブ ・各町漁協 ・消防団 等
(4) 要請内容	○平成 1 8 年 5 月中旬に、総務グループ（副長クラス）は、平成 1 3 年度からのプルサーマル理解活動で説明会を実施した各地域団体の代表者等に対して、開催チラシ、応募葉書および応募葉書の書き方を記した文書により、参加の呼びかけをお願いした。 ○また、参加される一部の方（1 9 名）に対して、これまで当社が説明してきた内容について、国から説明が聞ける良い機会であるため、日頃の報道等で疑問に感じることや意見がある場合は、発言していただくようお願いした。質問や意見については、本人に例文のメモを見せて、内容了解のもとお願いした。

以 上

国シンポジウムの発言の例

（１）基礎的知識

- プルトニウムについて質問します。プルトニウムは非常に危険で、百万分の１グラムでも人は死ぬと言った話があるが、ハッキリとした根拠のある話なのか教えて欲しい。
- 海外ではプルサーマルの十分な実績はあるとのことだが、プルサーマルをやっていない国もあると思います。なぜ、同じ原子力を行っているのに違いがあるのか教えて頂きたい。
- 英国の環境派の学者や原子力に反対していたグリーンピースの創始者が、原子力発電を見直し、推進するような発言をされているように聞いているが、本当か。そういった意見を聞いてどうお考えなのか。
- プルサーマルについて、多くの原子力発電所を抱えている東電や関電がやらずに四国電力だけがやるような話も聞くが、本当なのか。
- プルトニウムは猛毒だといっているのを聞く。チェルノブイリ事故は悲惨な事故であり、この間も特集でよく放送されていたが、プルトニウムによる被害といったことはあまり聞かなかったような気がする。実際にはどうなのか。
- 原子力発電所は爆発する危険性があると言われる方が多いのですが、本当なのか。爆発するとすれば、それは核燃料が爆発することなのか。
- プルトニウムは原爆の材料であり危険との話はよく聞く。しかしながら、核兵器を目的に開発したものと、平和利用を目的として開発するものを、同じレベルで議論することはおかしいと思う。これらは、原爆イコール原発とのイメージを植え付けるもので誤った先入観や誤解を生むだけのものと感じている。

（２）エネルギー関連

- 石油は、後４０年とか５０年で無くなってしまうと聞いたことがある。
最近のガソリンや灯油の値上がりを見ていると、本当に心配になっている。
石油が無くなっても困らないように、将来の日本のエネルギーをどのようにして確保しようと考えているのか国の考え方を伺いたい。
- ドイツなどは原子力を廃止するとの話を聞いたことがあるが、本当なのか。その場合、原子力に代わる電力をどのように確保する計画なのかご存じであれば教えて欲しい。
- 原子力を全て止めて、風力や太陽光等の自然エネルギーに置き換えながら、省エネルギー対策を進めるべきとの話をよく聞く。確かに、それが出来るのであれば良いと思うのだが、今の日本のエネルギー事情や、今後の見通しを考えた場合、そのような対策でこれまでと同じように、電気をまかなうことが現実的に可能なのか教えて頂きたい。
- 原子力発電やプルサーマルについては、それぞれ国の事情によって異なるような気がする。海外の実績も参考になるかもしれませんが、日本は日本のエネルギー事情を十分考えて判断することが重要だと感じた。
- 地球上の資源の有効活用と言うことで、昨今、リサイクルに対する認識が高まっており、車や家電においてはリサイクル法が適用され、我々消費者もその負担を担う時代となっている。プルサーマルも燃料のリサイクルであり、資源が乏しい日本は、再利用できる有益な資源は積極的に活用すべきではないか。
- 原子力に関しては、潜在的な危険性を有していることから賛否両論があることは承知しているが、今、現実的な問題として、近い将来には化石燃料等の資源が枯渇することや、ＣＯ₂（二酸化炭素）の排出による温暖化問題を考えたときには、やはり原子力は必要であり、その原子力利用の幅を広げるプルサーマルも必要と思っている。安全と情報公開を原則に、国と電力会社はエネルギーの確保に向けた更なる努力をお願いしたい。

（３）安全性

- プルサーマルをやると事故が起こった時の影響は大きくなるのか。
誰が配ったか解らないが、以前家に入っていたビラによると、これまでより４倍の面積で影響が出るとか、ガンの発生が多くなると書いてある。こんな話を聞くと、我々素人は、本当かどうか分からないので、ただ不安になってしまう。根拠のある話なのか、どうなのか。
- プルサーマルが始まると、発電所の中で働く作業員の被ばくが多くなると聞いたことがあるが本当か。発電所の安全性も大事だが、作業する人に対する配慮はどのように考えているのか説明して頂きたい。
- チェルノブイル事故は大変な事故だった。今でも多くの人が被害に苦しんでいることをテレビで報道していた。チェルノブイルと日本の原子炉では方式が違うので、同じような事故は起こらないと聞いている。また、日本と同じタイプの発電所で起こったアメリカのTMI事故も大事故だったが、外部への影響はなかったと聞いている。本当にチェルノブイルのようなことが起きないのか、説明して欲しい。
- 素人なので良くわからないのですが、プルサーマルを行うことで、これまでと違った複雑な運転方法が必要になったり、安全のための新たな装置を追加する必要はないのか。
- プルサーマルの安全審査で、国はどのような内容を確認しているのか、今日の説明である程度理解できたのではないかと思っている。１年以上かけて、色々な機関で専門家の方が慎重に確認されたのであるから、安全性は問題がないと信じたい。しかし、実際に伊方発電所でプルサーマルを行う場合、人間が係わったミスがないとも言えない。それを十分に考えた上、運転操作や作業のミスがないように慎重に進めて欲しい。
- プルサーマルに関しては、推進派や慎重派の先生の意見にはすれ違いがあるような気がした。どちらのお話しが本当なのかよく解らないところもあるが、国の審査はしっかりとやっていると感じた。しかし、国としては安全審査が終われば良しではなく、これからの作業に関しても、しっかりと事業者を指導して安全の確保に努めて欲しい。

- 専門用語が多く理解しにくいところもあるが、プルサーマルはプルトニウムの特性や性質をきちんと把握して行うとのことなので安心した。とにかく安全には十分に注意してやって欲しい。

（４）経済性

- 風力や太陽光発電などの自然エネルギーをたくさん造れば、原子力を止めても、これまでのように電気をまかなうことが出来るのか。また、プルサーマルと自然エネルギーのコスト比較はどうか。

（５）その他

- 最近、アメリカで原子力の新設や再処理を進めることを検討しているとか、アジア諸国では盛んに原子力を建設しているとの記事を見るが、世界的に見た最近の原子力の開発状況について伺いたい。
- ３号機でプルサーマルを行うとの事であるが、３号にした理由はなぜか。また、１，２号機も将来的にはプルサーマルを行うようになるのか。
- 伊方発電所が事故を起こした時の対応について２点ほど質問したい。
 - （１）もし、伊方発電所が重大事故を起こして我々が避難する必要がある場合、誰が連絡をしてくれるのか。また、何処へ避難すればいいのか教えて欲しい。
 - （２）伊方町にあるオフサイトセンターとは何をすることで、事故の時どのような人間が集まるのか教えて欲しい。
- 今回のようなシンポジウムも必要ではあるが、地元住民としては、四国電力が毎年行っている個別訪問で、いろんなことを直接話ができる機会が、お互いの信頼を築く上では大切だと思っている。四国電力にとっては、なかなか大変なことだとは思いますが、今後ともお互いの信頼を深めるための活動として継続して欲しい。

- 伊方に原子力が出来て３０年近くなるが、これまで大きな事故もなく安全に運転している。この地域は農業と漁業が主要産業であり、原子力による風評被害は致命的なものになりかねない。伊方発電所の安全運転は言うまでもなく、国も原子力の安全性、経済性、環境への影響等を広く国民に知らせ、原子力に対する「負」のイメージ一新に努めて頂きたい。
- プルサーマルの話を含めて、原子力のことは素人には解りづらい。解らないことはやはり不安に思う。プルサーマルの危険性が現在と大差がないにせよ、やはり地元の人間の不安を解消するように、色々な機会を通して繰り返し説明をする努力をして欲しい。
- 伊方発電所のトラブル報道がよくされているが、四電からは「小さな故障やトラブルも全て公表するようにしている」と説明を聞いている。地元にとっては、何でも隠さずに公表することはそれだけ安心に繋がると考えている。トラブルを無くする努力を怠らず、安全には十分気を付けて今後とも包み隠さず公表する姿勢を続けて欲しい。
- テロに関しては、大変な脅威であるが、本当に発電所が狙われるのかといった疑問はある。いずれにしろ、プルサーマルの実施に拘らず、テロ防止については、国をはじめ関係各所が連携をとりしっかり取り組んでいただきたい。

以 上

アンケート用紙（平成 18 年 6 月 4 日実施）

今後の活動の参考にさせていただきますので、アンケートにご協力をお願い致します。
それぞれ該当するものに○をご記入ください。

Q 1. あなた自身について、お聞かせ下さい。

お住まい 1. 伊方町 2. 八幡浜市 3. それ以外の愛媛県内

性別 1. 男性 2. 女性

年代 1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代

7. 70代 8. 80代以上

Q 2. 今回の『プルサーマルシンポジウム』全体のお時間（4 時間）はいかがでしたか。

1. 長かった 2. やや長かった 3. 適当だった 4. やや短かった 5. 短かった

Q 3. 『プルサーマルシンポジウム』に参加されての全体的なご感想はいかがでしたか。

1. とても良かった 2. まあまあ良かった 3. 普通 4. あまり良くなかった 5. 良くなかった

*どのような点でそう感じましたか

()

Q 4. 「プルサーマルの必要性」についてご理解いただけましたか

1. 理解できた 2. だいたい理解できた 3. 少しは理解できた 4. あまり理解できなかった

5. 理解できなかった

*どのような点でそう感じましたか

()

Q 5. 「プルサーマルの安全性」についてご理解いただけましたか

1. 理解できた 2. だいたい理解できた 3. 少しは理解できた 4. あまり理解できなかった

5. 理解できなかった

*どのような点でそう感じましたか

()

Q 6. 「プルサーマル」について、あなたが持たれている疑問を十分にとりあげた内容だったと感じますか。

1. そう感じる 2. だいたいそう感じる 3. どちらともいえない 4. あまりそう感じない

5. 感じない

*どのような点でそう感じましたか

()

Q 7. 「プルサーマル」について、住民にわかりやすくという工夫が凝らされていたと感じますか。

1. そう感じる 2. だいたいそう感じる 3. どちらともいえない 4. あまりそう感じない

5. 感じない

*どのような点でそう感じましたか

()

